ＮＰＯ法人日本防災士会 福島県支部（福島県防災士会）報告№.５１

開催日時：２０２２年２月２０日（日）
開催場所：月刊りぃ～ど（いわき市内企業団体誌）
開催内容：『防災情報②　普段使いの情報』と題して原稿提供
参加者　：福島県防災士会　１名

活動記録写真等

掲載原稿

4

防災減災のポイント

防災情報②
普段使いの情報

防災アプリは便利だが、普段使いができていないと、災害時に上手く使えない＝イメージ

　私は、いわき短期大学で非常勤講師として防災やボランティア関係の講義を行っています。関心のある学生が参加していますので、災害情報の入手方法についてアンケートをとってみました。

　すると、圧倒的にテレビのニュースという答えになります。若い人たちはスマートフォンやSNSで情報を得ていると考えていましたが、そうではありませんでした。

　そこで、「スマートフォンなどのインターネットやアプリを使用して、防災や災害に関する情報を得ているか」と質問すると、おおむね全員が「得ている」と答えます。

　どんなアプリをインストールしているか尋ねると、答えの多くは「緊急地震速報」や「ニュース」。質問を続けます。ラジオのアプリは？　天気予報は？　地図アプリは？

　すると、次から次に手が挙がります。マニアックなアプリを登録している学生もおりましたが、一方で普段使いされていないことが分かります。どういうことでしょうか。

用途よく考える

　主な使い道が違うのです。ラジオは、好きな番組を聞くため。天気予報は、降水確率を知るため。地図アプリは、行きたいお店の場所を知るため。実に惜しいことです。

　防災に役立つアイテムを使用していながら、なぜその用途で使わないのか。理由として「知らなかった」などの声があがったため、利用方法などを話すと、なるほどとうなずく様子がうかがえました。

　普段使いが出来ていないと、〝いざという時〟に上手く使えないことが多いのではないかと思います。

　ですから、普段から使用することと、どの情報の入手が防災や備えに結び付くのかを、一度考えていただきたいところです。

　以下の内容について、一度確認することをお勧めいたします。検索してみてはいかがでしょうか。

◇　　◇

〈参考〉国交省「重ねるハザードマップ」「わが町ハザードマップ」「川の防災情報」「地点別浸水シミュレーション」、気象庁「キキクル」「ナウキャスト」、NHK「ニュース防災」、地元自治体の防災メールやコミュニティーラジオ

書いている人

藁谷　俊史
（わらがい・としふみ）

一九六七年、内郷生まれ。日本防災士会理事、福島県防災士会理事、福島県「安全で安心な県づくり推進会議」委員。いわき短大の非常勤講師やテレビの防災解説者なども務めている